

令和元年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472301165	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	株式会社 へいあん		
事業所名	グループホーム 「へいあん鴨宮」		
所在地	(〒250-0874) 神奈川県小田原市鴨宮820		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和元年12月27日	評価結果 市町村受理日	令和2年3月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々が日々穏やかに自分らしく過ごされる事を目標としております。そして人生の最期に携われる事に感謝し貴重な時間を大切にしております。ささやかな楽しみを持っていただけるよう、一人ひとり違った関わり方の工夫と、季節に合った行事や外出を取組み、「きれいだねー」「美味しいねー」「ありがとう」そんな言葉にやりがいを感じます。「聴覚は最後まで残る」と言われています。笑顔のみならず笑声(えごえ)にて人を元気にし安堵を覚えることも大事にしております。認知症が進んだ方が、寒そうにされている方にそっとひざ掛けを差し伸べる姿に学びと感動を覚えます。そんな些細な自律をサポートできるような働きかけをし、アットホーム作りを築いていくよう心掛けています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和2年1月16日	評価機関 評価決定日	令和2年3月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 この事業所は、JR線鴨宮駅北口から徒歩で約15分の閑静な住宅地の一角に位置している。建物は2階建てのバリアフリー構造で、内部は吹き抜けの明り取りがあり明るい。リビングに隣接してダイニング・キッチンがある。外には草花の咲くプランターを置いた広いベランダが設置され、ゆとりのある造りである。
【アクティビティを通じた理念の実践】 「明るく、やさしい笑顔で利用者に寄り添う」という趣旨の理念を念頭に、職員の企画・立案により利用者と一緒に、七夕祭りの飾り付け、ハロウィンの仮装大会、浴衣姿の盆踊り大会、ケーキ作りとクリスマス会などを実施している。職員が発案し作成した下絵に、利用者がそれぞれ和紙をちぎったり丸めたりして制作した、正月の飾りつけ、赤富士、夏の田園風景、秋の農家の風景、利用者の出身地の特産品など、様々なテーマの貼り絵を制作している。作品は、共有空間の壁に掲載して訪問した方々を楽しませたり、利用者の回想などにも役立てている。
【職員の提案による業務改善】 管理者は、職員の意見や提案を出来るだけ実現するように努めている。「リビングとダイニングの使用頻度に合わせて仕切りを閉閉してはどうか」という意見により、仕切りを閉めて、片側だけ空調設備を稼働したところ、冷暖房費が節約できた。職員の意見により、早番、日勤、遅番を同じ勤務時間とし、作業内容も均等になるように調整することで、時間内に収まり残業が減少した。結果として、公平感が生まれて勤労意欲が向上し人件費の削減も達成され、本社の表彰を受けた。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム「へいあん鴨宮」
ユニット名	かるがも

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	グループホーム「へいあん鴨宮」
ユニット名	こさじ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、事業所の理念、品質方針を基本に、お客様の思いや期待に添った対応を心がけている。また、採用時研修や入社オリエンテーション時に説明し、実践に繋げている。	設立以来の「へいあん鴨宮はいつも明るく、やさしい笑顔でお客様に寄り添う時間を大切にします」という理念は、職員に浸透し笑顔で利用者に接して支援を行っている。管理者が職員の理念の認識が薄くなっていると感じた場合は、フロアミーティングで振り返りを行ったり個別に職員と話し合ったりして原点に戻り、認識を新たにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。散歩や月1回の自治会清掃活動、防災訓練、どんど焼きの参加やお祭りでは神輿の休憩所として事業所の駐車場を利用していただくなど、交流の場を設けている。太極拳、習字、ハーモニカや三味線の演奏にボランティアが来所している。	自治会に加入し、毎月の地域清掃や年1回の防災訓練に利用者や職員が参加している。地域の初詣やどんど焼きにも参加している。毎年、自治会や子供会の祭神輿、祭り囃子が事業所に立ち寄っている。ピアノ、ハーモニカ、オカリナ、三味線や尺八、バンドなどの演奏ボランティアが毎月来訪し利用者を楽しませている。公民館の文化祭にも作品を出展したり、鑑賞に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通してお客様の日常の紹介と認知症の症状によっておこる事例を説明させていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、地域包括、民生委員、また入居者様やご家族の方に参加して頂き2ヶ月に1回開催し日常の様子を写真をもとに報告している。また包括や自治会からの状況も伺い、意見交換を行いサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、年6回開催している。出席者は、家族、近隣住民、自治会長や副会長、民生委員、地域包括支援センター及び、法人や事業所の職員である。事業所の現状や活動、事故報告と自治会、地域包括支援センターからの情報提供に加え、「身体拘束適正化委員会」を開催し、事業所からの報告を検討し意見交換している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	小田原市高齢介護課へ直接不明な点や相談をとれる環境である。小田原グループホーム連絡会に参加して情報交換をしている。	小田原市高齢介護課には、運営推進会議の議事録や外部評価報告書を持参している。「小田原市グループホーム・小規模多機能連絡会」に加入し、市の職員も会議に参加し意見交換している。たすきリレー、RUN伴+おだわら2019に参加して交流を深めている。連絡会の、合同研修会、「高齢者虐待編－不適切な言葉遣い」の合同研修会に職員が参加している。研修内容を「身体拘束適正化委員会」にて報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で年に2回「身体拘束」についての研修を受講している。防犯と安全面より主玄関をご家族の了解を得て深夜時間（20：00～6：00）のみ施錠している。日中はタッチパネルにて解錠している。2階ユニット出入口は階段が近くにあり危険なため施錠している。利用者が外出を希望する際は職員と一緒に出て見守りに努めている。	身体拘束適正化検討委員会を、2か月毎に運営推進会議と併せて開催している。事業所からの報告事案について、事例検討や意見交換を行っている。玄関は施錠しているが、日中は玄関の受付台の脇に置かれたタッチパネルで、誰でも開錠できる。1階ユニットは開錠し、2階ユニットは、危険防止のため施錠しているが、職員の提案により見守りが困難な場合を除いては極力開錠するようにしている。利用者が外出を希望する場合は、職員が同行して気分をほぐすようにしている。	2階ユニット入口について、職員の提案により出来るだけ開錠を実施するような取り組みを行っています。職員の提案や話し合いの結果を「身体拘束適正化委員会」で検討し、議事録に残すことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で年に1回「虐待防止」についての研修を義務付けている。不適切であると判断した際には、ミーティングや個別に時間を設け注意をはかっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内外研修を通して学ぶ機会を作り知識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項説明書をご家族の方と読み上げている。不明な点や質問事項はその都度説明しご理解したうえで同意をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの電話応対、また面会時やケアプランの説明の際、意見、要望を伺っている。外出や外食、また衣類や食事提供などの要望にも出来る範囲で応えるよう配慮している。運営推進会議や年1回の家族会、家族の来訪時には利用者の日頃の様子を説明し、意見や要望を聞いて運営面に反映している。	家族の面会時や介護計画の説明時に、利用者の状況や暮らしの様子を伝え、家族と意見交換を行って希望や意向を把握している。年1回、家族会を開催している。事業所側から、法律の改正や料金の改定についての説明を行い、家族の意見や要望を聴いている。家族より、個別の通院について支援の相談があった際に、通院同行サービスや介護タクシーを紹介した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の管理者ミーティングとフロアミーティングにて意見交換の場を設け、方向性を確認し合っている。	毎月初めに、管理者ミーティングを開催した後フロアミーティングを開催し、原則全員出席となっている。職員は活発に意見や提案を出し合っている。職員の提案で、勤務時間や仕事内容の均等化を図るため、早番、日勤、遅番の勤務時間や仕事量を均等にした。結果として勤務に関して公平感が生まれ、働く意欲も向上した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働条件通知書を渡す際、個々の状態や目標を聞き取る機会を設けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内で1年の個別研修計画を設定し研修を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	小田原市内グループホーム連絡会での交流や研修に積極的に参加し他のグループホーム職員との交流により、意見交換や情報交流を行い質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回アセスメントにてご本人、ご家族、担当のケアマネージャーからの経過についての情報収集を行いご本人の思いやニーズをミーティングを通して職員全体で確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に相談できる電話対応や面会時に気軽に話せる環境に努めている。また行事や外出にも同行していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の問い合わせの段階でグループホームが適切であるか十分に伺い、必要に応じて支援ハウス、特養老人ホーム、有料老人ホームの紹介もしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る家事仕事は積極的に進めている。入居者同士で気配りが自然と行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの様子を鴨たよりを通して伝達している。面会時には散歩へ行って下さったり必要な方には職員に変わって、食事介助をして下さっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状や暑中お見舞いなどの挨拶は継続している。ご家族の協力で馴染みの美容院や買い物、外食、またお墓参りに出かけている。	外出レクリエーションを企画し、近隣のお寺を利用者全員で訪問したところ、ある利用者の菩提寺と判明し、墓参りが出来た事例がある。知人や友人からの手紙や年賀状、電話のやりとりを支援している。携帯電話を所有し、家族や知人と通話している方がいる。レクリエーションの一環で、絵手紙を書いたり投函の支援を行っている。馴染みの人や友人が来訪した場合、居室に案内し湯茶でもてなしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の想いを大切にしつつ、円滑に関係が保たれるよう職員が間に入り利用者様同士が関われるようサポートしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近隣にお住いの方からは退去後も散歩時にお会いし気にかけて下さっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時にご家族から「生き立ち」を伺い参考にしている。またアセスメントシートでの「私の気持ちシート」の活用や、個別になれる入浴時に、お話を伺い、思いや意向の把握に努めている。	入居時に、利用者や家族の現状、希望、意向などを把握し、「私の気持ちシート」に記録している。その後は6か月毎にアセスメントを行い、新しい情報を追加している。意思の疎通が困難な場合は、声かけなどをして表情や仕草から読み取っている。利用者より、同性介助の要望があったので、その意向に沿ってケアを行っている。コーヒー好きの利用者に、香りや味を楽しんでもらうために、地域交流室を利用して、「喫茶室」がスタートした。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	定期的なアセスメントと毎月のモニタリングで確認し合い、情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのペースに合わせてその時の心身状態に応じて過ごせる場を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティング時にカンファレンスし、主治医、看護師の意見を参考に6ヶ月ごとに介護計画を見直している。また作成したケアプランに沿ったサービスが実施できているか、毎日確認している。	介護計画は、アセスメントで利用者や家族の希望や意向を把握して作成している。計画の目標は、「個別サービス記録」の所定の欄に番号で表示され、担当者が該当欄に実施状況を記録している。毎月のミーティング時にカンファレンスを行い、記録を基に職員が話し合っ、利用者毎の担当者がモニタリングを作成している。計画の見直しは、通常は6か月、状況の変化があるときは随時実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	お客様全体の申し送りノートや横ノートの他、お客様別の担当者を設けて、目標や取組事項を設定し、見直しの必要性等を検討する機会を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の中での会話やご家族の要望に対応出来よう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お客様の特技や過去の職歴等の経験を活かし調理や裁縫、また民謡の師範をお持ちの方には歌の進行をお願いし、役割を持った生活が行えるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4週に1度の内科往診と週1度の歯科往診にて健康管理の維持を継続している。体調変化が起きた場合も適切な指示や主治医の協力が得られる環境にある。専門医の必要な際には紹介状を作成して下さり早急な対応の協力が得られる環境である。	協力医療機関の往診は、月2回である。以前からのかかりつけ医を受診する利用者が3名おり、外部の同行サービスを利用している。法人の訪問看護師が週1回訪問し健康管理などを行っている。24時間オン・コール体制である。訪問看護師と職員は、「医療連携記録」を介して、利用者の状況報告や対応方法の指示等を取り取りを行っている。歯科医は週1回来訪し、希望者を診療している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携ノートを活用して、日々のお客様の状態変化や医療的ケアについて相談等を記入して必要な医療的ケアや職員へのアドバイスが行えるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な面会とご家族様、また看護師との密な情報交換や退院時には担当看護師とカンファレンスを実施し、ホームに戻った際にスムーズに生活できるよう情報共有をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する指針」をもとにご家族に説明し意向を伺い同意をいただいている。重度化した場合や終末期には看護師よりケアの勉強会を実施しご家族の想いを重視したケアを行っている。	契約時に、「重度化した場合における対応に係る指針」、「看取りに関する指針」の内容を説明し同意を得ている。重度化が進んだ場合、医師を交えて家族の意向を確認し、看取りの希望があれば「看取り介護の同意書」を受け取っている。看取りの実施について、全職員が「良かったこと・頑張ったこと」「悪かったこと・出来なかったこと」を提出し、それをまとめて職員間で回覧して看取り実施状況の振り返りを行って、レベルアップを図っている。2019年度は2名の看取りの事例があった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職者については、普通救命講習の受講を義務付けており、在籍職員についても2年～3年以内に再受講できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を年2回、加えて大地震による災害訓練を年1回の計年3回訓練を実施し、地域の方も参加していただき地域との協力体制を構築に努めている。	2019年2月に夜間想定で火災対応避難訓練、7月に日中火災想定総合訓練、9月に夜間想定地震訓練を実施している。時には、運営推進会議開催日に併せて開催し、地域の方の見学や参加がある。災害備蓄は、飲料水、食料を職員の分を含めて3日分が法人の管理で回転備蓄されており、カセットコンロなども備えている。自治会の防災訓練に参加し、一時避難場所まで利用者も同行し、広域避難場所までは職員が避難体験をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報及び虐待に関する研修を年1回エリア統括責任者が実施して、不適切なケアや声掛け等について検討する場を設け、報告書の提出にて、振り返る時間を作っている。	毎年1回エリア統括責任者による接遇・プライバシー保護の研修を実施している。職員は、利用者のプライバシーに関する話をするときは名前のイニシャルを使っている。家族との打合わせは居室などで行っている。リビングで使う個人記録などの書類は、利用者の動線と離れた場所で記入や閲覧をして、キッチンの書棚に収納している。その他の個人情報を含む書類は、事務所の書棚に施錠して保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の家である事、自由な空間であるという気持ちで関わり、希望に応じて出来る限り応えられるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないよう、お客様のペースで過ごして頂いている。時間の制限をせず、やりたいときにやれるよう希望に近づけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に好みのある洋服選びをして頂くと同時に、身だしなみに配慮した洋服選びの声掛けをしている。外出時には気分転換がはかれるような化粧やスカーフなどを着用し、心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	クリスマスや正月、誕生日、七夕、お彼岸など季節に合った提供と日々の食事はお客様と同じテーブルで摂り会話の場を弾ませたり、危険に繋がらないよう心掛けている。	食事については、朝食や夕食は献立付きの食材が配達され、職員が調理し提供している。昼食は、法人から副菜のレトルト食材が届き、調理して提供している。3食とも白飯や味噌汁を職員が作っている。朝食や夕食は週1回、昼食は週に1~2回、フロア毎に職員が献立を作って食材を購入し、調理して提供している。職員は同席して、同じものを一緒に食べ、必要に応じて介助や見守りをしている。行事食は、職員が持ち回りで企画して実施している。月に1度は外食に出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お客様別の食事形態での水分摂取や食事摂取量を記録見直しを行い、水分摂取量が取りにくい方には好みの甘味飲料で進め、一人ひとりの状態に合わせた栄養確保が行えるようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては食事毎行い、お客様の状態に合わせて口腔ケア用品を使い分けて行っている。うがいが困難な方には口腔ウェッティーを使用し口腔内の清潔を保っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	起床時や食事前等、トイレの声掛けや誘導を行い、トイレにて自立した排泄が行えるようにしている。また必要に応じて排泄チェック表を利用し排泄パターンを把握しトイレ誘導のタイミングの目安にしている。	トイレは、ユニット毎に3か所あり、全て車椅子対応である。清掃は職員が行っている。日中は、排泄チェック表を基にタイミングを計って声かけや誘導を行い、トイレでの自力排泄の維持に努めている。失敗したときは、その場の状況によりプライバシーにも配慮して対応している。夜間は、見守り、定時の声かけ、おむつ交換など、個別に状態を見ながら介助をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、食事についてはヨーグルトやオリーブオイル、オリゴ糖などを使用、また腸を動かす為の運動等を取り入れて便秘予防に努めている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯を決めずに出来るだけ本人の意向に添うよう支援している。入浴を拒まれる方には無理強いをせず、シャワー浴や足浴、また入浴剤を利用して気分を高めお誘いしている。	入浴は、原則週2~3回で1日につき2~3名である。体調によりシャワー浴や清拭に変更することもある。希望により、入浴回数は柔軟に対応している。浴槽の湯はかけ流し状態にして、使用後は毎回、清掃、乾燥、消毒をしている。浴槽に湯を張り、脱衣室の空調設備稼働させてヒートショック対策をしている。同性介助に対応している。菖蒲湯や柚子湯で季節を感じてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設けているが、起きていたい方などに制限は特に設けておらず、自分のタイミングでの就寝を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤表で確認できるようにしている。症状により薬の見直しを主治医、訪問看護師、ご家族に相談させて頂いている。また、薬局の窓口にていつでも相談できる環境にある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様の特技や過去の職歴等の経験を活かし調理や裁縫等も役割を持った生活が行えるように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望を伺い出来る事を実行している。お客様の状態や希望に応じて外出や買い物の支援を実施している。	車椅子の方も含め利用者は、天候が良ければ、近隣の公園まで散歩したり、野菜の無人販売所などに、買い物に出かけたりしている。事業所の内部は広く回廊式になっている所を利用して、室内散歩も出来る。月に1度は外食に行ったり、花見やあじさい観賞、紅葉狩りなどでドライブをしている。法人の他事業所から車を借りて、職員の運転で利用者全員で出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の可能なお客様にはご自身で管理していただき、買い物や支払にはさりげない支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも連絡したい時には自由に電話や手紙のやり取りをしている。必要に応じて支援している。携帯電話を持ち込まれている入居者もいらっしゃる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるタンスや仏壇、鏡台、家族の写真などを自由に持ち込み自分の好みの居室にされている。お花の好きな方には季節の花を置くなどの工夫を心掛けている。	共有空間は広く、採光が良く明るい。リビングとダイニングキッチンがあり、利用者は、日中はそれぞれ好みの場所で過ごしている。壁には、イベントや外出の写真を掲示し、職員が企画して利用者と一緒に作った季節感あふれたる貼り絵などの作品が掲示されている。ベランダのプランターの草花は、苗から利用者が選んで買い求め、水やりなど日々の手入れを利用者が役割を持って育てている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1日の中で、お客様が共同して行えるレクリエーションや時間を設けて、お客様同士のコミュニケーションを深め、支え合える環境作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には自宅で使用していたお箸やお茶碗の他、家具等の持ち込みも進めており、ベッドの位置は大幅に変わらないようレイアウトし、お客様の混乱を招かぬような工夫をしている。	居室は、空調設備と照明器具、収納設備が常備され、利用者はベッド・防災カーテンに加え、テレビ、使い慣れた家具、家族の写真などを持ち込んでいる。職員が部屋の整理や清掃を行っている。利用者が手伝うこともある。居室担当者が、衣類の整理や日用品の補充を支援している。表札は、アセスメントにより、利用者の好みを把握したり、希望を聞いたりして飾りを作って表札に貼って、自分の部屋を分かりやすくしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前やトイレ前の表札を掲げている。出来る限り「できること」「わかること」を維持できるよう支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム「ハートマン鴨宮」

作成日 令和2年 3月 20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	2階ユニット入口の 施錠	見守りが困難な 場合と夜間帯と 除いて用錠する	4月のユニットミーティング時 で職員間で話し合い 5月の身体拘束適正化 委員会で報告する	2ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。